

## 北海道民放クラブだよ

### ソフトバンク三連戦

#### 1勝2敗で奪首ならず

井上 忠純(S.T.V)

ソフトバンクの意外な減速で、奪首が見えた我が日ハムファイターズは、満を持して8月19日から札幌ドーム三連戦に臨んだ。しかし第一戦、有原が3回までにホームラン二本で3点奪われる大誤算、また、打線も和田に散発4安打に抑え込まれ、0・3で敗れた。翌、第二戦、北海道民放クラブファイターズ応援団は14人のメンバーが参加、勝利を信じて声援を送った。一時は大谷のホームランで勝ち越し1点差、石井、宮西の必勝継投リレーに入り、これは行けると全員が思った。



勝利を願ってビールが進む  
F応援団

ところが宮西が8回まさかの連打で2点奪われて逆転。最終回もサファテに3人で片付けられて2・3、4万人近いファイターズファンから落胆の溜息が漏れた。ファイターズ応援団のメンバーの中には敗戦の瞬間を見たくないという人も出る始末だった。

第三戦は打線が繋がりに、新人加藤の力投や大谷、中田のタイムリも出て、ファイターズらしい戦い、4・2でようやく一矢を報いた。残り試合は少ないが、ゲーム差は0・5、直接対決があつた2試合あり、逆転優勝に期待できる状況となった。

### マイホビー 遙かな尾瀬

片平 卓男(H.B.C)

山を始めてから50年を超え、漸く本州方面の山にも足が向くようになった。誰もが憧れた《夏が来れば思い出す遙かな尾瀬》の日本百名山「至仏山と燧ヶ岳」をツアー会社に申し込む。

もうすぐ後期高齢者の仲間に入るがツアー参加にあたり、会社からの年齢・体力など厳しい審査が

現実味を帯びてきた。今回もツアーレベル体力度が★五つと一番厳しく(★一つが一番楽なレベル)担当からいい返事はなく、最初に登る山「至仏山」の様子を見て「燧ヶ岳」に登れるか判断したいという。参加者は13人うち男性は4人。

7月28日、尾瀬戸倉を5時前に出発、「鳩待峠」の至仏山登山口から歩き出す。道は雨の後でぬかるみ、石もよく滑る。「小至仏山」を経て「至仏山」の頂きを踏んだ。また「鳩待峠」に戻り「尾瀬ヶ原」を6km歩き「見晴」にある「第2長蔵小屋」を目指す。峠を出たあたりから雨が降り出してきた。木道は濡れてよく滑り、幅が狭くうっかり踏み外すと池塘や川に落ちるので緊張しながら歩く。

すれ違うパーティーも我らと同じ中高年グループが多く、うち八割以上は女性だ。休みを入れて13キロを10時間以上歩く。小屋はお風呂があり、軽く汗を流すことができた(石鹸・シャンプーは使用できない)。また、トイレはウォッシュレットでよかった。

29日、リーダーから「燧ヶ岳」登山の許可がでた。7月13日からようやく使用できるようになった

「見晴新道」から登る。数年前の土砂崩れで通行禁止だったが、関係者の努力で新しい登山道を開いてくれたので、約2時間短縮できることになり大いに助かった。

新しい道なのでまだ安定しなくて大いに滑る。100m登るごとに標識があり勇気づけられる。頂上は夏休みのせいで中学・高校生の団体が多く、順番で記念撮影する。

下りは「長英新道」から尾瀬沼を目指す。木の階段・木道が多く、「尾瀬ヶ原」同様緊張する。尾瀬沼の「長蔵小屋」に荷を下ろすと夕立がやってきた。30日は札幌に帰る日、一番天気が良い日だ。小屋から尾瀬沼を回り「大清水」まで3時間の歩き、途中シャトルバス(700円)があり1時間短縮できるが誰も乗らない。

関越道沼田I・C付近のお風呂で汗を流し羽田空港に向かう。釧路・女満別・稚内へ帰る人と別れ新千歳空港行きに乗る。

夏休みで家族連れが多く満席の状態。尾瀬は標高が約1600mで快適だったが、札幌は真夏日で蒸し暑い日だった。